

アブラコウモリ



夕方、小鳥より小さいアブラコウモリがヒラヒラと空を舞ったり、用水路をスーッと通過したりします。酒匂川や田んぼがあることから、えさになる小昆虫が多いので、普通に生息しているのです。

コウモリは「川守」が変化してできた言葉だと言われ、中国や日本では吉兆の生きものとして知られてきました。明治の文明開化でパラソルを「こうもり傘」と訳したのも、同じ理由からです。

透ける翼を油紙に例えて「あぶらむし」（昔、小動物は「むし」扱い）と呼んだことから種名がついたのですが、住宅に棲むことも多いので、「いえこうもり」とも呼ばれます。冬季は冬眠しますが、時には活動することもあります。



飛翔するアブラコウモリ



図書館に迷い込んだ  
アブラコウモリ